



(上) 村産の木材を使用することで自然との調和を図った「西粟倉保育園」。(下)『ありがとうファーム』が運営する「ハブラボ・キッズ」にて、『岡山芸術創造劇場ハレノワ』前広場の芝生のはりかえ作業を行なった。

一九六二年の創業以来、「超岡山志向」を掲げて、多種多様な建築物を手がけている株式会社重藤組。近年は、不動産や企業PR事業など多方面に挑戦している。「超岡山志向」とは、「岡山に根付いた企業としての強みを生かしつつ、岡山を超え、広い視野で事業を展開する姿勢」を意味する。根底にあるのは「岡山を発展させたい」という強い思い。「岡山は海も山もあり、水

や食べ物豊富で、「晴れの国」といわれる気候はスポーツにも最適。そんな岡山の環境に配慮した建築物を心がけています」。そう話す重藤社長率いる当社では、国連でSDGsが採択される以前から、省エネや環境負荷軽減に向けた技術や工夫を建築物に取り入れてきたという。SDGsを強く意識するようになったきっかけは、二〇一八年の西日本豪雨。倉敷市真備地区の甚大

自然や地域社会と調和する建築物の提供と
さまざまな支援活動で、岡山の発展を目指す。

と 紡ぐ人 ツナグヒト

持続可能な社会のために

第6回

な被害を目の当たりにし、建築が環境や人々の生活に与える影響の大きさを痛感したという。以降、「地域の安全と調和を守ることが、企業としての社会的責任」と、持続可能な社会の実現に向けたさまざまな取り組みを実施するように。就労継続支援A型事業所「ありがとうファーム」所属のハンディキャップ・アーティストへの支援もそのひとつ。「殺風景な仮囲いに彼らのすばらしい作品を用いたら、通りがかりのみなさんにも喜んでいただけたらと思ったのです」。そう話す重藤社長は、アーティストたちに継続的に利益を還元すべく、月ごとに作品が入れ替わる「レンタルアート」を本社内に展示している。ほかにも、地域社会の発展や子どもたちの可能性を広げることを目的に、地域スポーツクラブやeスポーツなどに協賛。さらに、とび職や左官職など建築土木関連の職人を育成するための「重藤アカデミー」の設立準備を進めている。「職人を育てることで人材激減というこの業界の課題解決、ひいては持続可能な社会の実現を目指したい。それが岡山の発展につながると信じています」と、重藤社長は大らかな笑顔を浮かべた。



株式会社 重藤組
代表取締役社長

重藤 武士さん

1960年、岡山市生まれ。東海大学工学部土木工学科卒。大阪の岸本建設株式会社を経て、1987年に入社。2002年から現職。モットーは「強く思い続けると夢は必ず叶う」。

私が残したい岡山の魅力

自然環境と地域コミュニティ

『東児が丘マリンヒルズゴルフクラブ』のコースから望む大好きな海と山の景色をはじめ、岡山の自然はエネルギーを与えてくれます。そして、市民が立ち上げた「うらじゃ」を大きな祭りに育てるなど、地域コミュニティには共生の精神が強く根付いています。そんな自然環境と地域コミュニティは、誇りを持って次代に引き継ぐべき資源だと思っています。

